

令和4年度(2022年度)

## 第2回留萌地域いじめ問題等対策連絡協議会の概要

事務局:留萌教育局教育支援課

### <本協議会について>

令和5年2月20日(月)に「第2回留萌地域いじめ問題等対策連絡協議会」を開催しました。本協議会では、今年度の取組の成果等について共有するとともに、次年度の方向性を確認しましたので、概要についてお知らせします。



【会議の様子】

### <協議>今年度の取組の成果と課題

**重点1** 児童生徒や保護者、地域に、いじめ等の定義や対応の考え方を広く周知し、学校、地域、家庭、関係機関が綿密な連携を図ることで、学校や地域・家庭でいじめ等の未然防止、早期発見・早期対応をする取組を推進する。

- ・縦割り活動や学校行事により、子ども同士の結びつきを広げたり深めたりすることができた。
- ・学校と教育委員会における日常的な連携により、常に子どもたちを見守る体制をつくることができた。
- ・生徒と保護者がともに参加する非行防止教室を開催するなど、薬物乱用やネットいじめ等に関して学び、親子で考える機会を設定することができた。
- ・地域の方々が学校とともに子どもを見守ることができる体制整備を、引き続き進めていく必要がある。
- ・学校は関係機関との結びつきを一層強化し、人権教室などの取組を進める必要がある。
- ・保護者や関係機関とのさらなる連携強化を図り、子どもたちの見守り体制を強化して、いじめ等の未然防止、早期発見・早期対応をする必要がある。

**重点2** 児童生徒に「自己肯定感」「共感的な人間関係」「自己決定」の3つの機能を生かした教育を充実させることで、児童生徒の自己肯定感を高めるとともに、互いに気持ちを認め合い、よりよい人間関係が構築できる取組を推進する。

- ・生徒指導の改善充実に向けて、「ほっと」の集計結果の分析を用いてSCとの情報共有や個別面談を実施することができた。
- ・各種イベントの補助、幼児への読み聞かせや除雪などの自主的なボランティア活動により、生徒の自己有用感や自己肯定感の醸成に繋げることができた。
- ・人権教室、人権作文、子どもの人権SOSミニレターや人権の花の活動を行い、人権に対する意識の向上を図ることができた。
- ・人間関係で悩む児童生徒が多いことから、ソーシャル・スキル・トレーニングなど社会性の発達を支援するプログラムを実施し、学校生活への適応、よりよい人間関係の形成等における主体的な取組や自己の生き方などに関して、組織的・計画的に取り組む必要がある。

### <次年度の取組の方向性>

- ・いじめは、「どの子どもにも、どの学校においても起こり得るものである。」という認識のもと、いじめの積極的な認知を確実に進め、早期発見・早期対応に取り組む。
- ・児童生徒の自己有用感を育成する取組をより一層充実させ、いじめを生まない環境づくりに取り組む。
- ・いじめ認知や不登校などの対応は、学校、教育委員会及び関係機関が組織力を発揮し、対応する。